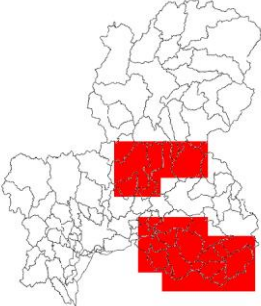


ナンバンギセル	<i>Aeginetia indica</i> L.	絶滅危惧Ⅱ類
		ハマウツボ科
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が大幅に減少している。	写真(箕浦博之)
形態の特徴	1年草。茎はごく短く、ほとんど地上に出ず、黄褐色で鱗片状の小さな葉を数枚つける。花期は7-9月。葉腋から長さ15-30cmほどの長い花柄を数本伸ばし、その先に横向きの大きな筒状の花をつける。花冠は淡紅紫色で、長さ3-5cm。	
生態的特徴	草地に生える寄生植物。ススキ、ミヨウガ、サトウキビなどの根に寄生する。	
分布状況	北海道～琉球、インドシナ、マレーシア、インドに分布する。県内では県南の北部及び南東部に生育する。	
減少要因	本種の分布域は県南の北部及び南東部に限定されており、もともと生育個体数も少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	
保全対策	生育地を公表する必要がある場合は、生育場所を特定することのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅲ」平凡社(1982)	

文責:佐藤和良